

(令和4年度第2次補正) 地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書 (市町村分) 個票

自治体名 越前市 (都道府県: 福井県)
本事業の担当部局名 健康増進課

事業メニュー	結婚_妊娠_出産_子育てに温かい社会づくり_機運醸成事業		
区分	一般メニュー		
関連事業メニュー	3.1.4 ライフデザインセミナーの実施		
個別事業名	命のぬくもり体験学習支援事業	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続
実施期間	交付決定日 ~	令和6年3月31日	事業開始年度 平成28 年度
対象経費支出予定額 ※(注)1	400,000 円		
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け ※(注)2	<p>(地域における実情と課題及び本個別事業の位置付け)</p> <p><地域における実情と課題> 男性・女性ともに有配偶率は年々低下している。また、この30年の間に、合計特殊出生率が下がってきている。結婚している女性の出生数(有配偶出生率)は、あまり変化していないが、結婚している割合(有配偶率)が年々低下していることが主な原因のひとつと考える。</p> <p>男性・女性ともに非婚・晩婚化の原因は、未婚者の結婚希望率が低下していることに加え、本市の若い世代の人口が減少し、出会いや結婚の機会を減らしている可能性が考えられる。また本市の出生数は長期的に減少傾向にあり、核家族化も進み、共働き世帯も増えている。</p> <p><本個別事業の位置付け> 人口減少に歯止めをかけ、持続可能な地域づくり、子育て・教育環境日本一を実現するため、越前市では総合戦略を令和元年度に見直し、その中で「Ⅲ若い世代の結婚の希望の実現」、「Ⅳ子ども・子育て支援と教育の充実」の施策を掲げている。</p> <p>将来的に、家庭を持ち子どもを育てていくことになる世代の中学生が、命の尊さ・親になることの責任などを「命のぬくもり体験学習(赤ちゃん抱っこ体験、妊婦体験等)」を通して学ぶ中で、中学生がより理解を深められるよう、事業実施がより円滑に行えるよう赤ちゃん抱っこ隊が支援する事業として位置づけられている。</p>		
	<p>(本個別事業における現状と課題)</p> <p>命のぬくもり体験学習の中で赤ちゃん抱っこ体験を開催する際、参加者募集は短期間で、より多くの乳幼児とその保護者の募集が求められる。また、開催当日に欠員なども出て、対応に苦慮している。より多くの中学生が命の尊さ・親になることの責任などを赤ちゃん抱っこ体験を通して学び、家庭を持ち・子どもを育てていくことに希望が持てるように広くこの事業をPRし、募集していくことが必要となっている。また、令和2年度より3年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初計画していたふれあい体験は実施できず、赤ちゃん人形による育児体験、妊婦体験といった模擬体験に変更して実施している。乳児と触れ合うという実体験に勝るものはないとの意見も聞かれる中、コロナ禍の中での体験をどのように実施していくかの検討が必要となる。</p>		
	<p>(課題への対応)</p> <p>新型コロナウイルス感染症流行禍に対応した、事業内容の変更を検討する。また、中学校との事前の打ち合わせを密に行うこととする。</p> <p>参加者募集に関しては、今後出産を控えている妊婦等にもPRできるようSNSを活用しフェイスブックにも継続してこれまでの取り組みを掲示する。赤ちゃん抱っこ体験の実際の写真や動画を利用し、広くPRすることでより多くの方が赤ちゃん抱っこ体験を知り、参加親子の増加に結び付ける。</p>		

	番号	項目	内容	ステップアップ	KPI設定
個別事業の内容	1	赤ちゃん抱っこ体験(ふれあい体験)の支援	<p>中学校が開催する赤ちゃん抱っこ体験の実施を支援する。関係者間が次年度以降も継続的に協働して実施できるよう連携・協力・調整を行う。(参加生徒数見込み7校で741人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各関係機関(中学校、教育振興課、健康増進課、保育園・認定こども園・幼稚園、子育て支援センター、公民館、子ども関連小売店等民間事業者など)への事業周知(赤ちゃん募集)の協力依頼 参加者からの申込受付、参加者の名簿取りまとめと各中学校との連絡 各学校やPTAスタッフとの体験学習事前打ち合わせ 体験当日の参加スタッフ(PTAなど)への教育・運営協力 各中学校との打ち合わせや連絡調整 抱っこ体験に関する問い合わせ対応 		○
	2	総合学習への協力	<p>中学校が開催する命のぬくもり体験学習の実施を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業にゲストティーチャーとして参加、作成した動画を活用して視覚的に乳児の様子を伝える 乳児期の発達に関して授業で使用できる資料(パワーポイント等)の作成 妊婦模擬体験、赤ちゃん人形の抱っこ体験への協力 各中学校との打ち合わせ(ねらいを共有し、達成できるよう構成を行う) 事前、事後の打ち合わせに参加し助言を行う 	○	○

※(注)3

【次年度以降に向けた事業の方向性】

次年度以降も積極的な継続実施を図る。赤ちゃん抱っこ体験は多くの関係機関が関与し、数か月前からの段取りや煩雑な連絡・事務作業も多く、学校や担当教員の負担感が高い一方、多様な生き方の中で命の大切さを理解する心の教育として、関係者からも継続した事業の実施を望む声が多い。この体験のことを広く周知し、赤ちゃん、その保護者、中学生、地域の方が体験に関わることで地域全体の育児力をより高めていきたい。雇用者の子育てと仕事の両立を支援する雇用環境の充実や地域児童の健全育成の取組などを自主的に行う事業所である市内の企業とタイアップして参加者募集活動を行い、地域で当事業がより浸透するよう働きかけをしていく。参加者の名簿管理や連絡調整など参加者・関係者が多いこともあり、実施主体である赤ちゃん抱っこ隊が負担が増大している。名簿管理や連絡調整に導入可能なツールを検証し、実施主体の負担軽減を図る。コロナ禍の中実施継続できる事業の展開を検討していく。

【事業内容を検討する上で参考とした既存事業】

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4	KPI項目		単位	目標値	現状値
		中学校での命のぬくもり体験学習(赤ちゃん抱っこ体験)の実施率	%	100(令和5年度)	100(令和4年度)
参考指標 ※(注)5	項目		単位	直近の実績	
	合計特殊出生率			1.61(平成25~29年度)	
	婚姻件数		件	284(令和3年)	
	婚姻率			4.4(平成25~29年度)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目		単位	目標値	現状値
	中学校の総合学習へのゲストティーチャーとしての参加率				
	全8校中7校実施	%		87.5	62.5
	命の大切さについて学ぶ「命のぬくもり体験学習」への理解が深まった人の割合(事後の自由記述式調査)	%		97	100
	親になることのイメージを持つきっかけとなった、または乳幼児に関心を持つようになった参加者の割合(事後の自由記述式調査等)	%		97	100
	参加生徒数の参加割合	%		95	95
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7					
民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	当事業を市民へ周知啓発し、参加者募集にもつなげるため、市の事業として民間事業所へ本事業の啓発や協力依頼を行う。				